生命（いのち）のにぎわい調査団

生命（いのち）のにぎわい通信

第　２１号：発行　平成２４年（２０１２年）３月

発行：千葉県環境生活部自然保護課
生物多様性センター
〒260-8682　千葉市中央区青葉町955-2
（千葉県立中央博物館内）
TEL 043-265-3601　FAX 043-265-3615
URL http://www.bdcchiba.jp/monitor/
E-mail　monitor@bdcchiba.jp

平成２３年度 生命（いのち）のにぎわい「調査フォーラム」を開催しました!!

調査フォーラム（平成24年3月3日・土）では、絶滅のおそれのある生きものについての講演や調査団の報告のまとめと活用を説明し、事例紹介発表は６名の団員から観察事例の発表がありました

県民参加型の生物モニタリングである調査団は、設立から３年７か月が経過し、団員は７２４名、報告件数は延べ14,300件・この１年間で5,400件（平均104件／週）です。フォーラムは、団員へ調査報告結果のとりまとめや生物多様性に関する普及啓発並びに情報交換の場として開催しています。

３年目となる団員からの事例紹介は、今回は６名から発表があり、併せて、調査団活動へのアンケートを実施して、情報の双方向交流を図りました。本号では、フォーラムの概要を紹介します。

１「千葉の絶滅危惧種を守る」　県生物多様性センター　柳　研介

絶滅危惧種を守るためには、生息環境、減少した要因などを把握した上で、方策を立てることが大切であり、安易な放流や植栽はやめるべきであること等を説明しました。シャープゲンゴロウモドキの回復計画と現状を解説しました。絶滅危惧種やその生息地域全体の継続的なモニタリングが必要であり、調査団の報告・情報が期待されています。

２「調査報告のまとめと今後の活用」　県生物多様性センター　柴田　るり子

団員からの報告は、県の保護上重要な野生生物をまとめたﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸや外来生物の生息情報としてGISデータベースに活用され、また、センター年報やハンドブックなどの刊行物で写真を使用する等、県施策への反映について、説明しました。

３　団員からの情報提供「観察事例の紹介」

①「勝田川周辺の自然環境～外来種と河川工事による影響」　木子　雅水くん（中２）

勝田川周辺を５年間、野鳥や動植物の観察を行ってきたが、河川の改修工事により野鳥の生息種数等の変化がある。生きものの生息地を守りたい、ぜひ、残してほしいと真摯な発表でした。

②「アリジゴクの生態大研究～巣・エサ・おしっこの研究」吉岡　諒人くん（小５）

アリジゴクは羽化まで排泄しないといわれてきたが、黄色い液がおしりから出ていることを観察して、巣づくり・エサも条件を変えて実験を行い、日本昆虫協会の2010年第21回夏休み昆虫研究大賞（グランプリ）を受賞されました。2011年は、「消えゆく水生昆虫！」の研究で、同賞の最優秀賞を受賞した未来のファーブル君です。

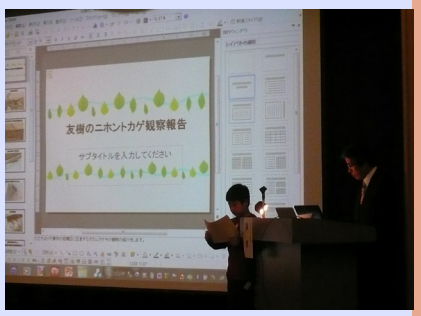
③「ぼくの大切なニホントカゲの観察」　高見　友樹くん（小４）

ニホントカゲを飼いはじめ、エサ等も工夫して飼育しているとの発表でした。大好きなニホントカゲの生息環境を調べ、ぜひ、繁殖させてみたいと、真剣に発表してくれました。

④「湧水地に棲息する希少生物の生態観察」千葉市立更科小学校教諭　高見　等さん

小・中学校の生徒とともに、湧水地に棲息する希少な生物を観察している。湧水地と周辺の豊かな自然環境を守り残していきたいと考えて、調査を続けているとの発表でした。

⑤「外房丘陵斜面の谷津田におけるトウキョウサンショウウオの卵嚢の観察」
南外房環境クラブ　高梨　優一さん



南外房（鴨川、勝浦、御宿、小湊）で、谷津田のサンショウウオの産卵地を守るために、生息調査や水質調査を行い、市や住民とともに生物多様性を調査し、谷津田の再生や生態系の保全を図っていく活動の紹介でした。

⑥「拾った羽根から種の同定」　調査団・県非常勤職員　中込　哲さん

羽根の識別ポイントを知ると、鳥がわかり、特に、タカ類やフクロウは、特徴的な羽根である。猛禽類が獲物の鳥を食べた痕からは、その地域での鳥の生息を確認できるとの紹介でした。

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報　**は、当センターのホームページをご覧ください**
「調査団」http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html と「生物多様性センター」http://www.bdcchiba.jp/

平成２３年度調査団「写真コンテスト」の審査結果

団員限定の「写真コンテスト」は、応募２７作品でした。いずれも、県内で、生きものの生命（いのち）のにぎわいとつながりを撮った、すてきな写真でした。生きものの営みや自然／生きものが見せる真剣さが、表わされています。

写真コンテストの最優秀賞、優秀賞の写真は、センター年報の表紙を飾るとともに、県の刊行物等で使用します。

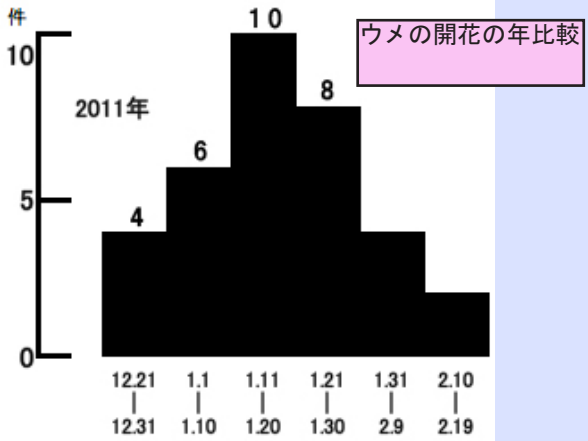
最優秀賞 a0285
「横取りは許さん！」
チョウゲンボウ

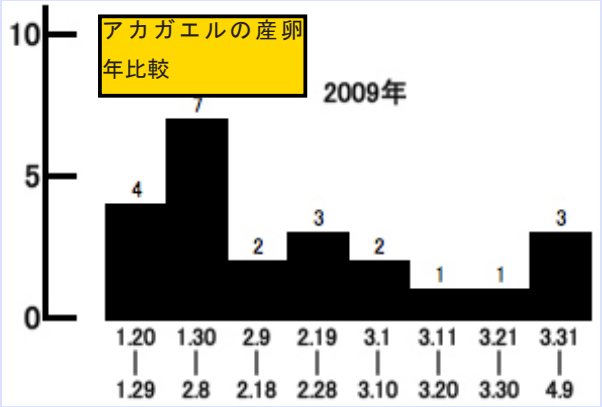
チョウゲンボウが餌を捕えて降りたところに、横取りを企てたハシボソガラスが寄ってきたが、猛然と追い払った。

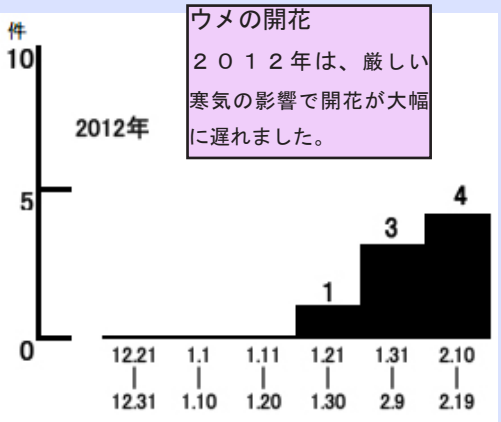
最優秀賞 a0261
「命の絆」
カワセミ

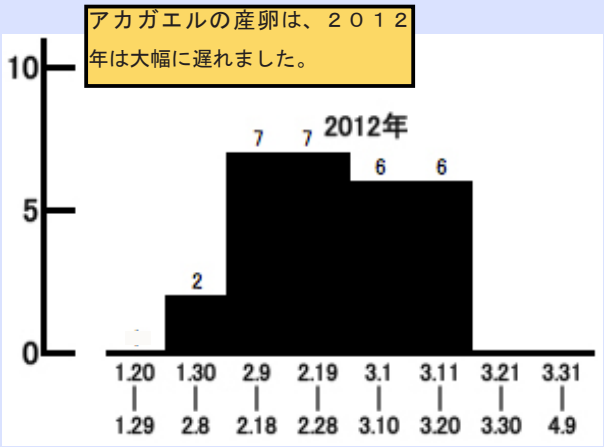
カワセミのオスが餌をメスに与え、食べてくれれば深い絆で結ばれます！求愛は、誠心誠意、つくします。

冬の寒気が厳しかったため、春の生物季節観測が遅れました！ウメ（開花）、両生類（産卵）、ツバメ（初飛）。ソメイヨシノ（開花）









2012 年の冬季は、

寒さが厳しく、春の生物の季節観測が遅かったとの報告を多数いただきました。

１月に強い寒気が流れ込み、月平均気温が平年より低く、降水量が少なかった。

また、２月中旬も気温が低く、降水量が少なかった。

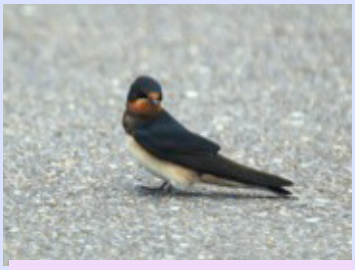
（気象庁 24 年 2 月 27 日発表資料から引用）

よって、アカガエルをはじめとする両生類の産卵が遅れました。

アズマヒキガエル（a0224）と
ヒモ状の卵塊（a0012）

アズマヒキガエルの産卵が始まりました。

ツバメの初飛来が始まりました。営巣はいつからになるか、報告を待っています、



ツバメ　a0284

ツバメ初飛来の年比較
（県内での団員からの報告）
2009 年：3 月 13 日／南房総市和田浦
2010 年：3 月　3 日／南房総市和田浦
2011 年：3 月 19 日／佐倉市
2012 年：3 月 22 日／袖ケ浦市

＜4～6月に観察できる生物と季節報告＞

ソメイヨシノ（開花）、キンラン、ツバメ（初飛／営巣）、セッカ、オオキンケイギク（特定外来生物）

調査対象種以外の外来生物、夏鳥、希少生物の情報を集めています。（写真添付をお願いします）

当センターの刊行物：年報、ハンドブック3「希少な生物を守る」等は、ホームページからご覧いただけます。